《入選》

幸せを
あたりまえにするために

城東小学校　六年
佐渡（さわたり）　大輝（だいき）　さん

なぜ戦争をやめないのだろう。ニュースを見る度に思ってしまう。どの国の人もみんないつも通り平和に暮らしたいはずなのに、どうして戦いの方向へ進んでしまうのだろうか。

ぼくは去年の夏休みに広島に行き、原爆ドームや平和記念資料館に行った。原爆が落ちた後の広島の写真はじごくのようだった。何の罪もなくただ普通に暮らしているだけだった人々が、どうしてこんなに苦しまなければいけないのだろうと思った。広島の資料館にあった小学校の黒板や壁には、自分の家族を探す訪ね人の文字がたくさん残っていた。家族に会えないままの人がどれだけたくさんいたのだろう。ぼくはとても怖くなって、くらくらするような最悪の気分になったのを覚えている。

同じような戦争が今も世界の別の場所でおこっている現実が信じられない。戦っている人やその家族は、どんな気持ちなのだろう。戦っている人は家族や友達とはなればなれになり、大切な人とも会えない。それでもまだ戦いたいと思っているのだろうか。本当はみんな傷つきたくなく、戦争なんてしたくないはずだ。

国と国との戦争は、けんかと同じでどちらが絶対に正しいとか、悪いとかはないと思う。相手のことを知らないままだとずっとけんかをくり返す。僕の学校の校訓に「友愛」という言葉がある。友達に対するやさしさのことで、「相手の立場に立って、物事を考えましょう。」と学んできた。国と国も同じで、お互いの国のことをよく知って、相手の立場になって考えられたら平和になるのだと思う。自分の国のことばかり考えて、「自分たちが正しくて、相手が悪い。」と考えるのは間違いだと分かっているはずなのに。人にやさしくするのはそんなに難しいのだろうか。

ぼくは以前にドイツに住んでいたことがある。ドイツと日本は全然ちがうけれど、近くに住む人たちはちがう国から来たぼくにやさしくしてくれた。名前を知って、顔を知って、あいさつをして、お互いのことを理解しようと歩み寄った。そうしていたら、何を話しているのか分からなくてもコミュニケーションが取れた。仲良くなれた。国せきも、人種も、言語もなにもかも違ったけれど心が通い合ったしゅん間だった。互いのことを知らないまま、理解しようともしないから敵になり、戦争が終わらないのかもしれない。

戦争は絶対にしてはいけないことだ。ぼくは友達と仲良くしたり、ちがう国の人のこともその人のことを知ろうとしたり、歩み寄る努力をしていきたい。みんながそうすることで戦争がなくなるのではないか。まずは自分が平和の一歩をふみ出したい。